

分散型クラウドを利用した高セキュリティ在宅医療／訪問看護アプリ開発

全国初の高いセキュリティで 安心・安全・簡単な在宅医療連携システムを構築

概要 高セキュリティでネットワークをつなぎ、地域連携で患者と医師や介護士等の在宅医療チーム間を結んで、患者情報をリアルタイムに情報共有ができるシステムを開発

本事業への取り組みの経緯

当社は平成25年度ものづくり補助金を活用した事業において、介護現場をサポートする医療連携型ロボットの試作開発を行った。その実証実験を通し、介護に関わる医師や看護師、介護士、家族間では、食事や排便等、要介護者を取り巻く日々の情報を共有することが、非常に重要であることを実感。在宅医療の必要性が高まっていく中、こうした治療や介護の最適な判断に結びつく情報連携は不可欠と考えた。

従来、在宅介護の現場では、要介護者宅で健康状態等を記載した患者情報記録は、施設に持ち帰った後、既存ソフトに入力されていた。さらに介護保険等の申請時には、事務スタッフがその情報を再度書類に落とし込んでおり、業務負担やミスの増加が課題となっていた。そこで本事業では、要介護者の情報共有による業務の省力化を目的とした、在宅医療連携システムの開発を試みた。

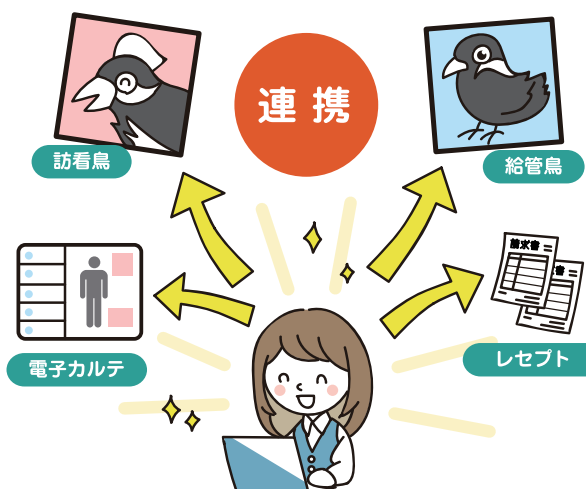
事業概要

本事業で開発したシステムでは、全国で初めて「物理分散型クラウド」というセキュリティの高

いネットワークを構築し、攻撃による情報の破損や漏えいを防止。介護現場では、IT知識がなくても簡単に操作できるようタブレット端末を用い、要介護者の健康状態等の情報をその場で入力できるようにした。また、入力されたデータは、多く



強化セキュリティの物理分散型クラウドを使用



医療現場の請求支援ソフトウェアと連携可能



代表取締役 深井 隆司

【情報サービス業】 **株式会社サイエンスネット**

〒503-0803 大垣市小野4丁目35番地8

TEL.0584-83-1167 FAX.0584-83-1168

設立／平成13年4月2日 資本金／1,000万円 従業員数／20人

https://www.sciencenet.co.jp/ e-mail/toiawase@sciencenet.co.jp

企業概要

平成10年にソフトピアジャパン内で創業し、平成13年に法人化。データベースの構築とそれらを活用する専用ソフトウェアの開発・構築を行うDB（データベース）事業部、サーバーやネットワークの提案・構築・保守を行うNW（ネットワーク）事業部、ウェブサイトの企画・提案・運営を行うHP（ホームページ）事業部の三部体制で、病院や自治体、企業向けまで、技術とセキュリティにこだわった事業を展開。近年は、現場のIoT化に力を入れている。



システム操作画面のイメージ

の医療機関や介護施設で使用されている請求支援ソフトウェア等とデータ連携を可能にし、リアルタイムで情報共有や一括管理をすることで伝達漏れを防ぎ、医師に対し素早く連絡できる。データを二度打ちする労力の軽減や入力ミスの防止、残業の削減を目指すシステムとした。

事業成果

開発したシステムによって、患者側は最適なサポートを受けることができ、医療従事者にとっては操作が簡単な上に情報が共有化され、迅速な対

応と効率的な労務が可能となった。介護現場においては、許可を受けた者がシンプルで見やすい画面を見ながら、介護記録及びバイタルデータを直感的な操作で入力できる。介護記録書の作成時には、現場で登録された内容が反映されるようになり、電子カルテと患者情報記録の連携も可能に。書き込みや閲覧には権限を設け、患者情報をすぐに探せる検索機能も付けた。これによって、他職種間でもリアルタイムで情報が共有でき、指示ミス・伝達ミスも防ぐことができる。また、非接触バイタル生体センサーを導入し、要介護者の見守りと急変時の通知機能も付加することができた。

事業の活用状況（補助事業実施後の取り組み）

現在、医療機関におけるテストを重ね、現場の意見を参考に修正等を行い、使い勝手の向上に取り組んでいる。2018年春には、実際に岐阜県内の医療機関で導入も計画されている。今後、地元で生まれたシステムであることを強みに、ヘルプデスクを設置して導入前後の手厚いサポート体制を確立しながら、さらに地域医療従事者・患者に貢献する場を広げていきたい。